

## 2 県立学校への対応

### (1) 県立高等学校

#### イ 県立高等学校の被害状況確認及び避難者等の受け入れに関する検討

高校教育課内全員が分担し県立高等学校へ連絡し、人的・物的被害の確認を行った。また、避難場所としての使用状況及び避難者数についても調査した。

#### ロ 避難所・検死場所等に係る調整

##### (イ) 避難所の調整

東松島市・亘理町より災害対策本部事務局を通じて避難所としての借用依頼があった学校との連絡調整を行った（東松島高等学校・石巻西高等学校・亘理高等学校）。

##### (ロ) 遺体安置所の確保調整

県警本部（環境生活部経由）より、遺体安置所の確保のため学校体育館を借用したい旨の要請があったことから、対象校と連絡・調整を行った。

（遺体安置所として使用：旧角田女子高校・本吉響高校・石巻北高校飯野川校・石巻西高・東松島高校、予備：旧築館高校、柴田高校、小牛田農林高校、仙台南高校、名取高校）

#### ハ 連絡不通の県立中学・高等学校を直接訪問し、状況を確認

高校教育課員によるチームを複数編成し、連絡が取れない高校（特別支援学校を含む。）について順次直接訪問。人的・物的被害の状況確認や入試合格発表に向けての支障の有無等を確認した（延べ40校）。

#### ニ 平成23年度入学試験について

##### (イ) 合格発表及び二次募集の延期を決定

3月15日予定の一般入試合格発表日を3月22日以降に延期することに決定。

3月22日予定の二次募集を延期することに決定（日程は別途設定）。

##### (ロ) 高校入試処理状況の確認及び入試事務スケジュールの変更

3月19日：第二次募集を3月22日から4月5日に延期することを決定した。

出願、実施内容については、手数料免除、合同受付、面接のみなど可能な限りの弾力化を図ることとした。

#### ホ 連絡系統の確立

高校教育課と通信連絡が取れる学校（学校が不通の場合は個人）の固定電話、携帯電話、宮城県電子県庁共通基盤システム、防災行政無線等の番号を一覧にした連絡先一覧を作成し、教育庁内関係課に提供した。

#### ヘ ガソリンスタンドに関する情報収集と学校への情報提供

災害対策本部事務局等から情報提供を受け、給油可能なガソリンスタンドの情報を各学校に伝達した。

#### ト 避難所となった学校の状況把握

各県立高等学校への避難者数、避難状況等を把握し、教育庁総務課に報告した。

#### チ 借り上げタクシーの配置

移動手段を欠いていた石巻管内の高等学校を中心に、タクシーを借り上げて配置し、学校の情報収集活動を支援した（3月20日～3月31日）。配置先は、石巻西、東松島、石巻、石巻好文館、

石巻工業，石巻商業，宮城水産，石巻北，女川，亘理，宮城農業の各校。

リ 生徒の安否確認

地震発生直後の被害報告では，情報が錯綜していたため，「生徒の安否確認」について様式等を整えて照会し，報告を集約した。4月中は毎日，5月以降は集計数値に変動があった都度，関係者に集計結果を報告した。

ヌ 緊急対応経費調査

地震発生により，緊急に必要なとなる経費について，調査を行い予算要求を行った。

ル 学校再開までの取り組み

(イ) 学校再開までの流れ

3月12日に3月14日から18日まで休校とすることを決定し，県立中学・高等学校に連絡を行った。以降の学校再開までの流れは以下のとおりである。

3月16日：3月中の授業の打ち切りを決定した。

3月21日～4月1日：各県立高校に対し，公共交通機関の回復状況及び道路状況等を踏まえた，生徒の通学手段に関する状況調査を行った。

3月19日：始業式・入学式は4月21日を目途に準備を進めることを決定した。

3月29日：教育課程編成について，標準を下回ること認めるが，学習に著しい遅れが生じることのないよう可能な限り必要な措置を講ずることとする基本的な考え方を各県立高等学校に示した。

4月1日：気仙沼向洋高等学校，宮城県農業高等学校分散化の方向について決定した。

4月13日：各県立中学・高等学校の始業式・入学式の日程を公表した。

4月20～22日：始業式・入学式を実施した。

(ロ) 具体的な取組について

「学校再開用チェックフロー」により，すべての県立中学・高等学校において，生徒の状況確認及び学校施設，通学手段等の総点検を実施した。

特に被害が大きかった農業高等学校（名取市），気仙沼向洋高等学校（気仙沼市），水産高等学校（石巻市）及びライフラインの復旧の目処が立たない志津川高等学校（南三陸町）については，以下のとおり，隣接地区等の高等学校の施設を間借りするなどして授業の再開を図ることとし，その旨を4月1日に公表するとともに，各校において生徒・保護者に説明した。

また，石巻市立女子商業高校についても，以下のとおり分散して学校を再開した。

- ・ 農業高等学校 → 柴田農林高等学校（大河原町），亘理高等学校（亘理町），加美農業高等学校（色麻町）に分散して学校を再開。

その後，農業・園芸総合研究所敷地内農業大学校グラウンドに建設した仮設校舎に，9月1日から移転した。

- ・ 気仙沼向洋高校 → 気仙沼西高等学校（気仙沼市），本吉響高等学校（同），米谷工業高等学校（登米市）に分散して学校を再開。

その後，気仙沼高等学校第二グラウンドに建設した仮設校舎に11月1日から移転した。

- ・ 水産高等学校（石巻市） → 石巻北高等学校（同）敷地内の仮設校舎で学校を再開。周辺地域の地盤沈下に伴う冠水対策の進捗状況を踏まえて，既存校舎への復帰を検討した。

- ・ 志津川高等学校 → 登米高等学校（登米市），上沼高等学校（同）に分散して学校を再開。  
ライフラインの復旧により 8 月 10 日から既存校舎へ復帰した。

- ・ 石巻市立女子商業高等学校（石巻市） → 石巻西高等学校（東松島市），石巻商業高等学校（石巻市），石巻市立女子高等学校（同）に分散して学校を再開。

その後，石巻市立女子高等学校グラウンドに建設した仮設校舎に，平成 24 年 1 月 10 日から移転した。

さらに，被災により校舎移転を余儀なくされた農業高等学校，気仙沼向洋高等学校，水産高等学校及び志津川高等学校を対象に，校舎復帰や仮設校舎への移転が終了するまでの間（水産高等学校においては 10 月 31 日まで），通学バスを運行した。加えて，遠隔地から通学している生徒への対応として，米谷工業高等学校の寮（気仙沼向洋高等学校の生徒 2 人）を一時的に利用した。

- ・ 平成 23 年 7 月，産業教育審議会に「震災被害の大きい農業高校・水産系高校の再建について」諮問し，平成 24 年 1 月，「被災 3 校の学校再建に向けた具体的な方針等を早急に示すことが必要」との中間答申が出された。

- ・ この内容も踏まえ，以下のとおり，被災 3 校の「再建に係る基本方針」を定めた。

水産高校は，現在の校舎を改修した上で平成 24 年度中に復帰し，平成 28 年度末を目途に現在の校地内で新校舎の建設を進める。農業高校は名取市内西部での，気仙沼向洋高校は気仙沼市内南部での再建を目指し，平成 29 年度末完成を目途に新校舎の建設を進めることとした。

#### ヲ 学校への支援活動

高校教育課から各県立中学・高等学校教職員に被災校への支援を呼びかけ，県立学校 13 校に 51 校から延べ 367 人（養護教諭を含む）を派遣し，学校機能復旧のための校舎等の整備，生徒の面接指導，避難所における保健指導，健康観察，健康相談，衛生管理などの支援を行った。また，文部科学省に対し，教職員の定数加配を要望した。

加配の内示を受け，校舎を分散して学校を再開せざるを得なかった 3 校に教諭 15 人，被災地に所在する高校 10 校に養護教諭 10 人を配分するとともに，石巻市立高校についても加配を要望し，教諭 1 人，養護教諭 2 人を配置した。

また，震災対応で業務量の増加した県立高校 25 校に対し，緊急雇用創出事業を活用し，計 26 名の臨時職員を配置した（平成 23 年 9 月 30 日現在）

特に被害が大きかった農業高等学校，気仙沼向洋高等学校，水産高等学校については，高校教育課内に支援チームを設置し，諸課題の解決のため指導・支援を行った。

#### ワ 被災した生徒等への経済的な支援等

##### （イ） 既存の奨学金制度について

被災者の奨学金の償還について，対象者全員の償還を平成 23 年度中猶予とした。また，被災生徒に対する奨学金の貸付については，申請の方法を簡素化し，広く貸付できるよう配慮した。

##### （ロ） 新たな奨学金の設置

震災により被災し，経済的に修学が困難（半壊以上，父母死亡，家計収入の半分程度の減など）と認められる生徒の修学支援を行うため，「高等学校等育英奨学資金貸付事業」において，当該生徒に対する奨学金を新たに設け，月額 2 万円（年額 24 万円）を貸付した。（貸付者 6，160 名）

この奨学金については、償還時の収入により償還を免除することとした。

(ハ) 入学者選抜手数料等の免除

被災した生徒の入学者選抜手数料、寄宿舎料及び入学金を免除することとした。

[免除実績：入学者選抜手数料 168 人、入学金 1,883 人 (平成 23 年 12 月 20 日現在)]

カ 雇用確保のための対策

平成23年3月新規卒業生の雇用確保及び平成24年3月卒業予定者の雇用拡大のため、以下の訪問活動や事業を行った。

(イ) 経済主要5団体に対する雇用要請訪問

- ・ 3月22日に、知事、教育長、宮城労働局長連名で要請を行った。
- ・ 7月20日及び11月22日には、宮城労働局、県、県教育委員会、仙台市及び仙台市教育委員会の5者が連携し、新規学卒者の採用枠の確保に関する要請を行った。

(ロ) 県立高校への人的支援

- ・ 今年度当初からキャリアアドバイザー等を全県立高校に配置した。
- ・ 今年度から新たに就職支援推進員を10校に配置し、在校生や卒業生の就職支援に当たった。

(ハ) トライアル23事業の活用(4月から9月期/53人 10月から3月期/25人)

- ・ 就職未内定及び内定取消の卒業生を、臨時職員として県立学校等で採用した。  
延べ59人応募 → 平成24年2月27日現在の配置17人、就職内定等による退職42人  
(退職内訳/内定24人、進路準備10人、待機解除入社5人、その他3人)

(ニ) 就職達成セミナーの開催

就職希望者を対象に、就職試験前の8月までに就職ガイダンスや模擬面接などを実施した。前期は、学校開催23回、公共施設開催15回、2,632人の参加があり、後期は、9回の開催で86人の参加があった。

(ホ) その他

- ・ 被災者対象求人を県立高校に提供した。
- ・ 首都圏で開催された企業説明会に、希望する就職担当教員が参加をした。
- ・ 9月9日に開催された宮城新卒者就職対策本部会議にて、新卒者就職応援メッセージ及びみやぎ新卒者就職応援プランが採択され、就職支援への取組が確認された。
- ・ 10月14日に仙台市内で、宮城労働局や県と連携し、県外企業合同面接会を開催した。
- ・ 県内で開催された合同面接会すべてに送迎バスを準備し、被災地域や遠方の生徒に対して参加の支援を行った。

ヨ 被災生徒・保護者に対する相談活動

(イ) 被災者教育相談フリーダイヤルの開設

4月1日から5月31日までの2か月間、被災した児童生徒や保護者からの教育相談に応じる専用フリーダイヤルを設置した。

相談内容としては、奨学金や転入・転出等に関するものが多く、転入については特に福島県からの転入生を積極的に受け入れることとした(相談実績334人)。

(ロ) 生徒の心のケア

被災した生徒の心を支えていくために、カウンセラーを長期にわたり継続的に派遣することと

し、スクールカウンセラーを配置しているすべての学校（県立高校76校、特別支援学校3校）に対して、第Ⅰ期（4月から9月）・第Ⅱ期（9月から3月）それぞれ8回分（1回6時間）派遣回数を上積みした。

さらに、特に被害の大きかった石巻地区、本吉地区、名取・亶理地区の17校には、5月から7月までの3か月間、通常配置のカウンセラーとは別に週2回程度緊急派遣カウンセラーを派遣した（県内から3人、県外から8人）。また、9月以降についても、11校に対して、3月まで緊急派遣カウンセラーを派遣する体制を組んだ（県内から1人、県外から8人）。

#### タ 被災した県立高校の生徒の通学手段の確保（県立高校通学手段緊急確保事業）

##### （イ）事業概要

震災により校舎の使用ができなくなり、他校の校舎を使用して学校活動を行うこととなった県立高等学校に在籍する生徒のうち、通学に当たって東日本旅客鉄道株式会社の鉄道路線等の利用ができない生徒について通学手段を確保するため、仮設校舎への移転等までの間、業務委託により通学バスを運行した。

通学バスの運行業務委託手続きに当たっては、県立高校再開の目標日に設定された4月21日に向け、バスを利用する生徒数の把握及びバスの所要台数の確保、道路の被災・復旧状況を踏まえつつ、利用生徒の避難先や学校のタイムテーブルに応じた運行経路・運行時刻表等の設定等について、極めて短期間において業務受託者及び当該高校との調整を行った。

なお、運行経路の設定については、職員が直接現地に出向き試走を重ねるなどして、より効率的なルートを選定やバスの乗降箇所の確保に努めた。

##### （ロ）対象高校

農業高等学校、水産高等学校、志津川高等学校、気仙沼向洋高等学校

##### （ハ）業務委託先

社団法人宮城県バス協会

##### （ニ）受入校・最大利用生徒数、運行期間等

高校・学科	受入校・最大利用生徒数	車種・台数	運行期間
農業高校 ①農業機械科 ②農業・園芸科（1年のみ）	加美農業高校（計239人） ①118人 ②121人	中型6台	5月9日～ 8月22日
水産高校 全学科（海洋総合科、情報科学科）	石巻北高校・120人	大型2台 中型1台	5月7日～ 10月31日
志津川高校 ①情報ビジネス科、普通科（3年） ②普通科（1・2年）	（計351人） ①登米高校・160人 ②上沼高校・191人	大型2台 中型4台 小型4台	5月9日～ 7月30日
気仙沼向洋高校 ①産業経済科 ②情報海洋科、専攻科 ③機械技術科	（計314人） ①気仙沼西高校・87人 ②本吉響高校・112人 ③米谷工業高校・115人	大型3台 中型3台 小型2台	5月9日～ 10月28日
4校合計	1,024人	27台	

(ホ) 運行経路

- 農業高等学校  
名取市民体育館～加美農業高等学校
- 水産高等学校  
JR 石巻線渡波駅前～石巻北高等学校
- 志津川高等学校
  - ① 旧歌津町内～登米高等学校～上沼高等学校  
ファミリーマート榊沢店前→登米高等学校→上沼高等学校
  - ② 気仙沼市内～旧歌津町内～登米高等学校  
小泉中学校→平成の森→登米高等学校
  - ③ 旧歌津町内～上沼高等学校  
平成の森→上沼高等学校
  - ④ 旧志津川町内～登米高等学校  
ベイサイドアリーナ→登米高等学校
  - ⑤ 旧志津川町内～上沼高等学校  
ベイサイドアリーナ→上沼高等学校
  - ⑥ 旧志津川町内～登米高等学校～上沼高等学校  
ホテル観洋→志津川自然の家→横山公民館前→柳津小学校前→登米高等学校→上沼高等学校
  - ⑦ 旧志津川町内～登米高等学校  
志津川高等学校→登米高等学校
  - ⑧ 旧志津川町内～上沼高等学校  
志津川高等学校→上沼高等学校
  - ⑨ 旧志津川町内～登米高等学校～上沼高等学校  
入谷入口バス停付近→登米高等学校→上沼高等学校
  - ⑩ 気仙沼市内～上沼高等学校～登米高等学校  
友愛団地→階上公民館前→大谷・海洋館→本吉体育館→東和国際交流センター→林林館  
→上沼高等学校→登米高等学校
- 気仙沼向洋高等学校
  - ① 旧志津川町内～旧歌津町内～本吉響高等学校  
ベイサイドアリーナ→皿貝→平成の森→ファミリーマート榊沢店前→蔵内→本吉響高等学校
  - ② 旧歌津町内～気仙沼西高等学校  
ベイサイドアリーナ→平成の森→ファミリーマート榊沢店前→小泉中学校→本吉体育館  
→大谷・海洋館→階上公民館前→友愛団地→気仙沼西高等学校
  - ③ 気仙沼市内～気仙沼西高等学校  
階上公民館前→友愛団地→気仙沼西高等学校
  - ④ 旧唐桑町～気仙沼西高校～本吉響高等学校

唐桑・さんさん館→八幡大橋（鹿折）→JR 気仙沼線気仙沼駅→エースポート→気仙沼西  
高等学校→赤岩→友愛団地→階上公民館前→大谷・海洋館→本吉響高等学校

⑤ 旧唐桑町内～本吉響高等学校

唐桑・さんさん館→八幡大橋（鹿折）→JR 気仙沼線気仙沼駅→エースポート→本吉響高  
等学校

⑥ 旧唐桑町内～気仙沼市内～米谷工業高等学校

唐桑・さんさん館→八幡大橋（鹿折）→JR 気仙沼線気仙沼駅→エースポート→米谷工業  
高等学校

⑦ 気仙沼市内～米谷工業高等学校

赤岩→大谷・海洋館→本吉体育館→米谷工業高等学校

⑧ 気仙沼市内～米谷工業高等学校

友愛団地→階上公民館→本吉体育館→米谷工業高等学校

(へ) 生徒の費用負担

なし

(ト) その他

県立高校通学手段緊急確保事業の実施と併せて、JR線の不通に伴い通学困難な県立高等学校の生徒の通学手段を確保するため、県立高等学校の学校再開（4月21日）に向けて、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社及び宮城交通株式会社に対し、4月11日、要望活動を行った。

- ・ 東日本旅客鉄道株式会社仙台支社に対する要望内容  
不通区間の早期再開，列車の増便・車両編成の配慮，代行バスの増便等
- ・ 宮城交通株式会社に対する要望内容  
不通路線の早期再開，増便・新たな路線の開設等